

# 入善町 議会だより

## 9月定例議会

№. 77号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会

富山県下新川郡入善町入膳3,255

☎ 0765 (72) 1100



11月11日

# 舟見城址館が オープン

公職選挙法の改正により、  
議員は年賀状を出すことができなくなりました。

入善町議会



水キラキラ 町いきいき入善

9月定例会

第十五回入善町議会定例会は、九月十一日から二十日までの十日間の会期で開催され、平成三年度一般会計補正予算など議案五件、請願二件、議員提出議案一件、同意案三件について審議した。

主な使いみち

- ※平成三年度一般会計補正予算
  - 二億九千八百五十五万一千円を増額補正し、一般会計予算の総額を八十六億七千八百四十四万六千円とした。
- 今回の補正は、国、県補助事業の決定によるものほか、防災行政無線改造工事費二千五百四十九千円、中央通り線整備事業費一千五百六十五万四千円、マイクログラス購入費六百三十九万六千円などを補正し、その財源として、国庫支出金九千二百五十万円、県支出金一千七百四十五万一千円、繰越金一億二千五百十二万二千円などが充てられる。
- ◆漁港施設災害復旧事業費
  - 一億四千三百六十八万六千円
- ◆林道施設災害復旧事業費
  - 三千九百三十六万円
- ◆防災対策費
  - 二千四百四十八千円
- ◆庁用車管理費
  - 六百三十九万六千円
- ◆観光事業費
  - 二百五十一万二千円
- ※平成三年度国民健康保険特別会計補正予算
  - 医療給付金が確定したため、支



▲崩壊した林道六谷線

年金現況証明は十月一日から無料化に

※戸籍記載事項証明の無料取扱いに関する条例の制定
戸籍の記載事項証明書（現況証明）が無料交付になります。ただし、個人積立年金等については従来どおり有料です。
※駐車場条例の一部改正
町山内に建設された「サン・コーポラスくぬぎやま」の供用開始に併せ、駐車場条例の一部を改正した。

※決算特別委員会を設置
平成三年度決算を審議するため、五名の委員による決算特別委員会を設置し、十二月定例会までの議会閉会中の継続審査とした。
委員長 板川 清治
副委員長 広瀬 喜代志
委員 若島 信行
九里 郁子
松沢 孝衛

助役、収入役 教育委員を再任

※助役、収入役の選任
平成三年九月三十日に任期満了になる助役、宝田幸雄氏、収入役、上田修氏の再任に同意した。

※教育委員会委員の任命
平成三年十月八日に任期満了になる窪野康則氏を再任することに同意した。
教育長 窪野 康則

請願・陳情の結果

- ★国民健康保険税の引き下げを求めの請願書 (継続審査)
- ★町道墓ノ木・島線(島東通り線)の拡幅整備に関する請願 (採択)
- ★「コノ輸入自由化反対自治体宣言」についての陳情 (継続審査)
- ★防災林設置に関する陳情 (採択)

議員提出議案

治水事業の推進に関する意見書
国土を保全し、国民の生命と財産を守り安全でうるおいのある生活環境を確保するうえで、治水事業は、生活基盤整備の中でも最優先で実施されなければならないものである。
とりわけ、入善町では、我が国有数の急流荒廃河川の黒部川を有し、流域を構成する地質の大部分は花こう岩であるため、風化作用も受けやすく度重なる山崩れや河川の氾濫等に見舞われ、町民生活に計り知れない被害を及ぼしてきている。
よって、政府におかれては、平成4年度を初年度とする第8次治水事業5カ年計画を策定し、積極的な投資規模を確保するとともに、その強力な推進を図られるよう強く要望する。
以上、地方自治法第99条第2項の規定により意見書を提出する。
平成3年9月20日

入善町議会
内閣総理大臣 海部 俊樹
大蔵大臣 橋本 龍雄
建設大臣 大塚 孝司



収入役 入善町入膳三三七七 上田 修



宝田 幸雄



入善町入膳三八〇二の五 窪野 康則

# 町政に対する

# 一般質問

## 人口増に向け Uターン者受け皿を 万全に

田原 進 議員 (自民)

**問** 今、県内ほとんどの市町村で過疎化が進み、人口問題が深刻化しており、厚生省は、七年後には老年人口が子どもの人口を上回るものと発表している。

入善町の七月末現在の人口は、二万九千九百五十三人で対前年比百七十七人の減となり、反面、世帯数が十戸の増となっているが、出生率の低下に原因があると考へる。

就職情報社の調査結果によると来春大学卒業予定者の過半数が地元での就職を希望している。非常に喜ばしい事であり、若者のUターンで町が潤い、活性化し、人口

増にもつながるのではないかと。

当局もこれらを踏まえ、Uターン者の万全なる受け皿づくり、施策が必要と思うが、町長の考へは、

### 「雇用の場・住宅環境・都市機能」の充実を図る

**町長**

人口増対策の一環となるUターン者の受け皿は、大きく分け「働く場所の確保」、「住宅環境の充実」、「魅力ある都市機能の充実」の三点に尽きると考へている。

町の企業も数多く、またいずれの企業も人手不足と言われ、数的な面では充足している。今後は、高学歴化時代の若者を受け入れる、質的に充実した優良企業の誘致に努めていきたい。

住宅環境も町山内に新設された雇用促進住宅を含め、十分ではないが、数・質的に整備されていると考へる。

今後、若者に限らず人口増対策として、宅地の分譲も行っていききたい。

魅力あるまち、即ち「リトル東京」に結び付けがちなが、交通・通信機関の整備で地球全体が狭まり、時代は田舎らしさ、入善らしさを

## 五議員登壇

残した形の町づくりを求めていると予測している。

また都市機能の必要性も考慮し、都市型ホテルの建設・遊び場の整備等を重点課題とし、Uターン定着化、人口増を図っていきたい。

### 工場拡張ならず 積極的な用地斡旋を望む

**問**

一例ではあるが、町内の企業が工場拡張計画を立てたところ、用地買収が成立せず、拡張出来なかったやに聞いている。

町が積極的に用地の斡旋をして

いれば、工場も拡張され、当然人手も必要となり、Uターン者受け入れ基盤の一助となったと考へるがどうか。

### できる限りの協力を

**町長**

会社が希望する土地の買収は、所有者の意向もあり困難を極めたと聞いている。この間、町も会社と協力し、できる限り所有者に働きかけてきた。

現在、賃貸の方向で話が詰められている。

また、黒部市の二つの企業が町に立地を希望しており、成立に向けて鋭意努力しているところである。

### 手狭なりハビリ施設 増設・新設の計画は

**問**

現在、町の身体障害者数は千四百十三人、うち軽度身体障害者は四百十

人と聞いている。

軽度の方は、町の健康センターでリハビリを行っており、対象者は脳卒中後遺症の方のみである。

利用者は一日に二十五名から三十名もあり、機能回復を目指す方々にとって、非常に重要な施設となっている。

利用率の高くなった健康センターは今や、手狭な状態にあるといえる。近く、健康センターの増設もしくは、リハビリセンターの新設の計画があるか。

### リハビリ用 機具・機材の充実を

**町長**

健康センター内のリハビリ施設では、脳卒中後遺症のある方を中心とした、リハビリ友の会会員が四十二名、平常は十五人ほど訓練を行っている。

リハビリ訓練を毎日開設している所は県下でも入善だけである。週一回は医師及び理学療法士に直接訓練指導をお願いしており、この時には二十名程の参加がある。

場所が狭い、訓練用の機具・機材が不足きみと問題も多い中、参加者が増えているのも実情である。

町の総合計画では、平成八年以降に「健康ふれあいプラザ」建設を計画しており、この中でリハビリ施設の充実を図っていききたい。

既存場所での拡張は困難であり、今後、リハビリ用の機具・機材を年次的、計画的に充実させていきたい。



▲手狭になったリハビリ訓練室

# 行政システムの見直し 職員の適正配置は

竹内 壮太 議員(清新)

問

昨年十二月に提出された財団法人日本経営協会の入善町行政報告書では、行政と民間との違いを指摘し、硬直化して画一的な行政管理システムを見直す必要があるとのまとめを提言している。

できるもの、できないものがあると思うが、町民ニーズで作られた諸施設の管理運営に伴う職員配置や、今後の行政機構改革など、どのように対応していくのか。

## 少ない人数で 行政サービス

助役

本町の行政機構は、昭和四十二年、昭和四十八年、昭和五十六年と、急激な社会構造の変化に即応して、事務能率の向上に務めながら行政運営を推進してきている。今回は国際化、情報化、高齢化の時代背景を踏まえ、組織の弾力化を図る必要から行政診断を受けた。

全国に二十七ある類似団体と比較すると、事務部門の職員が比較的少なく、施設管理部門が多い。町長部局の職員一人当たりの町民の数を見ると二百五十一人で類似団体中三位、行政委員会では八位

と上位を占め、これは比較的少ない人数で行政サービスの提供をしているものと思っている。

近年の行政需要は多様化しており、実態を踏まえ、組織の整備点検、人事管理に配慮するとともに組織機構の見直しについては事務改善を前提に的確に対応できるよう努めているが、町の独自性を失うことのないように改善に取り組んでいきたい。

## 保育所の今後の対応は

問

町の保育所は、第三次産業就労人口の増加や勤労者の勤務体系の多様化に伴い、早朝や延長保育、土曜・日曜、祝日の開所、ゼロ歳児の受け入れ態勢などいやがおうでも取り組まなければならない問題があるが、報告書によると必ずしも行政が直営する必要はないと指摘している。町の見解を伺いたい。

## 保育所運営は より慎重に

助役

保育所の民営化など大きな問題の提言もあったが、内容は民間等の比較での提案がなされているがいろんな見方、考え方がありと思

っており、即採用することになじまない部分が多に多い。ゼロ歳児保育など大幅に拡大すると、多くの職員を必要とする。労働時間短縮が叫ばれている中で取り組みは慎重に検討せざるを得ない。

## 論議と強力な指導性を

問

企画機能は基本構想や長期計画の策定、見直しとして位置付けられ、実施計画の進行管理、事業査定等、予算形成との調整機能を持たざるを得ないと考えられるが、政策決定から実施までの過程で資質の高い論議と強力な指導性が欠如しているのではないかと。

継続的な計画に乏しく、でき上がった施設が中途半端になり、維持管理に問題が残る。また、投資的效果等についても十分検討することなく事業採択をしているのではないかと、総合的にみて、検討課題があると思うがどうか。

## 事務事業は適正

助役

企画財政課は市内十四課の子算の編成、総合計画の策定、事務事業の効果の策定など行う中心的な存在である。

また、各課との調整を行うことももあるが各種事業に対するチェックも行っており、これらについても適切に行っていると思っっている。用地取得等についても、価格の決定など町内のバランスをとる



▲工夫された学校給食

ような役割ももっている。今後の取り組みについては、改善すべきものは積極的に取り組んでいきたい。

## 登校拒否の原因に

問

最近のマスコミ報道では、肉・牛乳、そば、チーズなどで二十人に一人がアレルギー児だとしているが、ある学校ではアレルギー児のために特別メニューを作るとか母親の作った弁当を持参しているため、子供の世界で村八分やじめにない登校拒否の一因となっていると聞いている。

町内の学校の栄養士、調理師などは工夫されていると思うが、町内のアレルギー児対策の取り組み、人数について問う。

## 小学生十三名 中学生七名

学校教育課長

各小中学校における年度初めの

保健調査の結果、小学校には十三名、中学校には七名のアレルギー傾向をもつ児童がいることは、把握している。

原因として、卵、牛乳、大豆、肉、魚などがある。学校ではこれらを使用しない給食は不可能であり、アレルギー児には食べられないよう指導しながら、栄養のバランス等については、家庭と連絡をとり対処している。

また、学校、友達内でのトラブルはないと聞いており、アレルギー対策については学校と協議し進めている。

## 弱い人に 暖かい手を

問

今年十月一日から年金等の戸籍記載事項証明手数料を無料化にされるが、有料についてはそれなりの理由があると思う。

しかし、政治は弱い人に温かい手を差し伸べるのが基本である



▲良質な地下水の保全を

と考えるが、無料化に至る経緯は何か。

### 年金受給者の立場を考慮

町長

二百円という負担は必ずしも大きな負担ではないと思うが、年金を受けている人達というのは一番弱い立場の人だと、あるいは高齢者であるということから無料化に踏み切った。

住民課長

平成二年度決算において、現況証明の件数は九千四百九十三件、百八十九万八千六百円となっている。全国的には、大都市を中心に無料化しつつあり、中部圏内の県庁所在地の市では殆んど無料化している。

県内では、富山市、宇奈月町が四月一日から実施している。

### 公害のない企業誘致を

問

水質汚濁防止法施行令の一部改正が十月一日から施行され、トリクロエチレン等による洗浄施設、未規制の小規模事業所も規制対象になる。

本町は、企業進出が活発化し、水の汚れる条件が肥大しつつあるが、総合計画の諸施策は、「水の問題と町の活性化の問題」と非常に矛盾した点があるので。

入善町商工業振興条例の水質保全に関する条例をより強く求めることも大事かと思うが、基本的な考え方を聞こう。

### 優良企業誘致に努力

町長

商工業振興条例は企業誘致に重点をおいたものとなっているが、

公害の未然防止に関する協定締結もうたっており、覚書や協定を取り交わしている。環境保全、公害防止の点から見直すべきだという考え方について

## JR在来線存続運動 決意を尋ねる

九里 郁子 議員(共産)

問

北陸新幹線建設に伴う並行在来線の廃止反対、JR経営の存続は町民の八十割を超える署名でも明らかのように、町民の総意と言っても過言ではない。

県下に先駆けて在来線廃止反対の決議を行い、在来線存続特別委員会を設置した町議会と、各界各層で組織された町民会議がしっかりと協力、共同体制をとり、町民の願いに応えるため一層運動の強化を図るべきと考えるが、どうか。

### 在来線存続運動 町民の決意

町長

在来線のJRによる経営存続は町長としての考えであり、町民の皆さんの要望、決意であると受け止めている。

基本的には、新幹線建設に反対ではないが、新幹線が浮上してから二十年以上経過し、新幹線をとりにくく情勢も大きく変化しているのではない。

では、今後十分に参考にして対応していきたい。また、企業誘致にあたっては、公害発生の恐れがない優良企業の誘致に努力したい。

### 地下水汚染 検査体制を強化せよ

問

黒部川湧水群を跨る町の地下水の一部から有機溶剤、トリクロロエチレンが検出され、八月の三回目の水質検査ではトリクロロエチレンの検出数値もわずかながら減少したものの、地元住民にとっては今回も検出されたという事実を重い気持ちで受けとめている。

地下水だけでなく、特定地域の水田土壌についても汚染の心配がされており、土壌の検査については地元の要請に応える考えはあるか。また、町内事業所に対し、使用

### 行政指導と 厳しい姿勢で臨む

町長

一部水田の土壌汚染があるのではないかと指摘については、そのような報告は聞いていない。

困が平成元年によくこの有機溶剤を規制の対象にしたことなどから、土壌汚染と植物のメカニズムについて、因果関係など科学的な立証は非常に難しいと考える。

土壌汚染について、事実があれば関係機関とも十分相談をしながら、分析等も含め対応して行かねばならない。

陸砂利の採取は果知事が認可をしており、埋め戻しの材料については果が十分審査を行い、パトロールをする体制になっており、水質の汚染につながるようなことはないと考えている。

農薬の使用計画、使用報告を提出させ、保管、排水、廃棄などの立ち入り調査、検査体制を強化すること等、大量に使用する企業すべてと公害防止協定を締結することについて、その意志があるか。

棚山ゴルフ場については、地下水の安全対策、環境庁の水質汚濁防止の指針に沿って、排水口から水質検査を指定された三十種の農薬すべてについて、年四回以上実施することや、農薬使用量の報告は毎月行うことについてはどうか。

陸砂利採取に関する地下水汚染の防止、地下水涵養に関する影響調査について、その対応はどうか。

埋め戻しの材料については、必ず山土砂を入れることになっており、このことを重視すれば問題は起きないものと考ええる。

**環境保健課長**

トリクロロエチレンの検出については、八月の調査では十二箇所検出された。全てについて検出値は下がっているが、今後とも引き続き周辺の調査を実施して参りたい。工場、事業所での有機溶剤の使用状況については、百九十三事業所中十三箇所で使用しており、いずれもその状況を確認してある。

今まで法規制されなかった事業所も今度の法改正により対象となり、県の指導強化も考えられるので県と連絡を取りながら十分監視して参りたい。

**企画財政課長**

棚山ゴルフ場に関する地下水安全対策のうち、排水口を受ける残留農薬の調査については、町が棚山ゴルフ場と結んだ農薬等の使用に関する協定書に基づき対処したい。

県では殺虫剤、殺菌剤、除草剤のそれぞれにつき二種類、計六品目を県の要綱に基づき調査を義務づけており、町としては県の六品目以外を追加して、別に六品目を実施することにしており、それ以上の上の三十品目全部ということは考えていない。

農業使用の報告については、協定書において年間の使用報告を翌年四月末まで提出することに規定している。また必要があればその



▲コシヒカリの刈り取り

都度報告を求めようと考えている。調査結果の公表については、現時点では考えていない。

**アトピー性皮膚炎 積極的な対策を**

富山県保育所給食研究会が今年度初めて実施した実態調査によると、入善町の保育所入所児のうち検診受診者の三・八割がアトピー性皮膚炎という結果がでている。アトピー性皮膚炎の子供をもつ母親の悩み、子供を預かる保育関係者の思いに、その原因の究明、対策の調査研究に国はもちろん町も積極的な対策を取る必要があると考える。

本町における乳幼児期の実態と対策を示していただきたい。

**診断基準未確定 生活環境面の指導**

環境保健課長

昔から乳児湿疹という病名で悩んでいたと言われているが、原因については説明が遅れており、世界的にも共通の診断基準が確定していない。このようなことから、本町におけるアトピー性皮膚炎と乳児の検診時に把握されていない。乳児の検診時における調査結果では、アトピー性皮膚炎あるいは湿疹、皮膚炎など総称した形での皮膚の異常者として、十月月児において二百八十一人中二十四人で八・五割、三歳児においては三百八人中三十八人で九・七割と把握している。

対策については、診断がはつき

りしないところから、生活環境面からの指導を行っている。

**コメ輸入自由化阻止 具体的行動を**

コメの輸入自由化を阻止することは、国民の健康、国土の緑、国の主権を守ることである。

マスコミが執拗にコメ自由化をあり、農業攻撃を行っている中で、主婦連の調査結果によると、この四年間に七十割も反対が増え、国民的な運動と世論の広がりが増え、コメの自由化阻止の大きな力になるものと確信している。

県下有数の良質米生産基地、入善町のコメ輸入自由化阻止宣言などの具体的行動実施は、町民はむろんのこと県下農家ははじめ、県民に大きな励みになると考え、町長にその意志があるか。

**機会ある毎に呼びかけ**

町長

優良品質米生産基地の町長として、コメの自由化問題については常に機会ある毎にコメの自由化阻止を呼びかけており、十分効果が上がっていると考えている。

自由化阻止宣言の効果については疑問をもっている。

**他用途利用米出荷 予約限度数量確保の上で**

農家では、米の出荷に際して、まず予約限度数量を確保した上で

他用途利用米の出荷にしてほしい、そのことがコメの輸入自由化を阻止し食糧制度を守ることにつながるので、農協を指導してほしいと要望されている。

また、他用途利用米は三等米で良いとされているが、そのサンプルを求める農家の要求に応える考えはないか。

**他用途利用米 転作の一環**

農政課長

予約限度数量の達成状況は、昭和六十二年の百四・七割を境として過去三年連続して未達成となっている。

他用途利用米は水田の有効利用と、加工原材料用米穀の供給を図る観点から、昭和五十九年より取り組まれ、転作の一環として位置付けをされている。

配分された数量については、転作と同様百割以上達成する必要があるが、主食用米の限度数量を達成できない時、作柄の変動に依りて他用途利用米の調整を図ることが認められていることから、統一基準取量の調整を行ったうえで、他用途利用米の一部を主食用米に転用もしている。

他用途利用米のサンプルについては、作況調整による主食用米への転用を行う場合、出来るだけ品質の良いコメが必要となるので、農協ではそれらに対応できるよう農家に指導を行っている。

また、他用途利用米は三等米で良いとされているが、そのサンプルを求める農家の要求に応える考えはないか。



▲一人ぐらし老人とホームヘルパーの交流

# ケアリングソサエティ 運動の展開を

広瀬 喜代志 議員(自民)

**問** 高齢化社会に対する在宅福祉はホームヘルパーに頼るだけの行政では対応できなくなる。自分の健康は自分で守るといふ運動とともに、町民全体が福祉に関心をもち人生の一定の時期に介護や看護、人生相談に携わることとを原則とするケアリングソサエティの運動を図るべきと思うがどうか。

入善町がこの問題に町を挙げて取り組み、安心して生涯を過ごせる町づくりを目指すこの制度の確立は、条例化を図るべきと考える。

## 保健福祉計画策定 ボランティア養成へ

町長

福祉の方向づけは施設の整備も大切だが、これからは在宅福祉あるいはボランティアが底辺で支える形の福祉が大きな流れでないか。一部の企業では、社会的責任としてボランティアの養成に力を入れる考えが非常に大きくなっていく。また、主婦あるいは元氣な老人、小中学生等ができる範囲内において、老人や社会福祉社に対して理解を深めるというような意味での学習、訓練がボランティアの層を厚くし、今後これらの努力が望まれるのでないか。それがケアリングソサエティ実施の近道の一つ

でないかと考える。これらの問題については、法の改正に伴い市町村に保健福祉計画の策定を義務づけており、具体的には社会福祉協議会など関係団体とも十分連絡を密にしながら対応したいと考えている。

## 中央通り線建設 市街地活性化の効果は

問

我が町の悲願であった中央通り線建設と関連をもつ入善駅前顔づくりは、モータリゼーションの発達、高速交通時代の到来で新幹線問題として浮上し、商業の活性化は時代の潮流とともに町内に東西二大商店街構想が実現へと進み、既存商店街の夢ある街づくりは歯の抜けたようになり、都市計画と活性化というテーマが複雑化しつつある。

幅狭する現実をどのような視点でとらえ行政指導をしようとしているのか。投資効果と商業、町の活性化にどのような変化と期待を込めているのか。

## 町のシンボルロード 市街地を一新へ

町長

入善は、現在の駅を中心にして市街地が形成され都市計画事業が作られており、自動車の時代ではある程度、総合的な需要価値というものが低下するにしても駅前が無くなるというようなことはないかと確信している。



▲物件移転が進む中央通り線

## 商工会へ職員出向は

問

入善町商工会から町の職員を出向させてほしいという声もあるがどのような理由によるのか。またどのように対応されるのか。単なるうわさなのか。

## 許す範囲で精一杯協力

町長

商工会への町職員の出向については、商工会内部の人事的な問題もあり、できれば当分の間、町の職員を出向させてもらえないかという要請を受けた。

町の商工行政などとも密接不可分の団体でもあり、町も許す範囲内において精一杯協力をする。商工業の発展や責務にも通ずる問題だと理解をし、いま検討をしている段階である。

# 「姉妹都市を訪問して」

アメリカ  
オレゴン州

10月19日～26日

☆フォレスト・グローブ市☆

本多幸男議員

平成三年度入善町姉妹都市使節団の一員として訪米の機会を与えて頂き感謝申し上げます。  
七泊九日の日程は快速でした。  
今回の使節団は広く一般市民の皆様から公募して選考された八名の団員を中心に、当局より二名、町議会より二名、計十二名の構成となり、宝田助役が団長をつとめました。メンバーはいずれも地域で多種多様な活動をしている人達が多く、三回の事前打合せ会の頃から明るいファミリーとなり、充実した使節団派遣になったと自負しています。  
幸いな事にちよūd私達が出発する十月十九日は、富山県と米国・オレゴン州が友好州協定に調印する日とあってパーバラ・ロバーツ同州知事が来富されていたタイミングが後日、相当地に役立ちました。  
名古屋空港から一路ポートランド市へ。空港でフォレスト・グローブ市の皆さんの出迎え。ほとんど昨年、入善町を訪問された方達であったので再会を喜ぶという雰囲気でした。車で四十分、フォオ市役所街に到着して、みんな感激したことは、入善町が一昨年贈ったコインホリがたくさん泳いでいて「水キラキラ入善の皆様ようこそ」のステッカーが街のウインドに見られたことです。市役所二階のラウンジには、一九八九年五月十二日調印した姉妹都市盟約書が楠本春雄町長並びに当時の石川昭男議長の署名入りで飾られています。

また、町長揮毫の掛軸や福袋、兜など相互に贈り合った記念品が陳列されており、心細い思いでした。

## 議会活動は

### 余った時間に

アメリカは州が憲法をもち、地方府と言われ権限が集中する為、市町村は日本の地方自治体と比較して見てもあまり意味はありませんが、子め見聞の目標を定めて調査すると興味は尽きません。  
シティマネージャーのコーナーから行財政の仕組みを聞きましたが、彼女の任務と役割りは最も職務ではあるが自信に満ちあふれています。「六人の市議員は他に本業をもっており、余った時間に行政のことをやります」との説明が印象的でした。

## 水と緑を大切に

団員一人づつ三泊四日、フォオ市の一般家庭にホームステイできた事は米国人生活に触れ、有意義な経験となりました。  
今次訪問で力点を注いでいるフォオ市の施策を次の様に感じました。

- 一、行政は常に市民本位
- 一、自然保護、水と緑を大切に
- 一、禁煙の徹底で健康を守り、火災を防ぐ。消防警察予算の削減
- 一、麻薬と窃盗の撲滅
- 一、農場を見て感じた事は、広大な土地で近年シャクナゲや針葉樹の



▲シティマネージャーを表敬訪問

鉢植え農業が盛んです。稲作一辺倒の入善町農業にユニークさを取り入れる為にも、フォオ市の畑を貸借して苗木と鉢植え栽培を考えればどうか、市場調査をと直感しました。

## フォレストに

### 入善町民の家を

そしてもう一点、今後、交流が益々盛んになる事が予想されますが、その都度ホームステイでは、どちら側も大変です。フォオ市の豊富な木材で、入善町民の家を建てできないものか。もし実現すれば今より短かい日数で安い費用で

多くの町民がフォオ市を訪問し、交流見聞できると思うのですが、終りに今次使節団は、バドで獅子舞、盆踊り、三味線を披露したのですが、その中心的役割りを演じたのが白又正司議員でした。

入善町を芸能面から紹介し深い感銘を与えました。尚、成田へ到着し上野で宿泊した晩、やおらポケットから英文の手紙を一通、離陸の日、パーバラさんから頂いた。ちなみにこの種の感謝レターを頂戴したのは白又議員唯一人であった事を申し添え報告の一端といたします。



# 常任委員会 審査報告

## 町民ニーズに即応した 事務執行に努力を

総務常任委員会  
委員長 広瀬喜代志

当委員会に付託された案件は、議案三件、請願一件で、議案三件については全員一致で可決、請願については全員一致で継続審査とすることに決した。

議案第三十五号一般会計補正予算の歳入は二億九千八百五十五万一千円で、毎回繰越金が論議されているが今回繰越金は一億二千五百二十二万二千円で、既定額と合わせると三億三千二十四万一千円になる。この内各款の不用額等は毎年二億円程度生じているが、町民ニーズに対応した事務事業の執行がなされているのか問題があるのではないかと意見もあった。繰越金は、翌年度の貴重な財源となっているが、不用額については早期に把握し町民の要望に応える事業執行に振り向ける努力も必要でないか。また、町債費について今年度は

八億一千三百四十万円となり、平成三年度末借入高は四十八億五千四百六十七万円の見込みと聞くが公債費比率、債務負担比率を合わせると、準公債費比率は十六・四割となり年々比率が上がってきており懸念する。各年度の事業の実施や財政事情により異なるものがあるが、健全財政という観点から特に留意願いたい。

### 防災行政無線施設改造

歳出について、防災対策費二百四十四万八千円は、先の六月定例会での上原地区からの請願や今後予想される地区利用に配慮し、町の防災行政無線施設をアナログ式からデジタル式に根本的に改造するためのもので、情報化時代に対応した住民のコミュニケーションや情報伝達に大きなメリットがあ

ると期待するものであり、早急な取り組みに敬意を表したい。

### 公的年金等の 現況証明を無料化

議案第三十七号入善町戸籍記載事項の無料取扱いに関する条例の制定について、世論の情勢はいろいろあるが県内三市町のみであり、英断を高く評価したい。職員は、証明が無料になったという観念で住民に接することなく、窓口対応についてはなお一層親切な対応に心がけるよう要望したい。

国民健康保険税の引き下げを求める請願については、この主旨は六月議会で国民健康保険税条例の一部改正が可決され実質的な引下げが行われているが、国・県の補助率三十八・五割を四十五割に戻すことを関係機関に働きかけていただくとともに、国保加入者の皆さんにも自分の健康は自分で守り病気の早期発見、早期治療に心がけて、国保財政の安定化に努めていただきたい。



▲窓口での現況証明交付

## ホームヘルパー 事業の拡充を

文教厚生常任委員会  
委員長 五十里隆章

当委員会に付託された案件は、議案第三十五号一般会計補正予算、議案第三十六号国民健康保険特別会計補正予算の議案二件で、議案第三十五号は賛成多数で可決すべきものと決し、議案第三十六号は全員一致で可決すべきものと決した。

一般会計予算中、老人福祉費に四百八十四万四千円が補正され、ホームヘルパーの社会福祉協議会移管や「ケアハウス笑福学園」建設補助金等がある。ホームヘルパーの社会福祉協議会移管については、財政基盤が安定していない不安定要素が強い協議会移管にホームヘルパーが自分の仕事に生きがいと誇りをもって働くことができると疑問であり、町は福祉施策を後退させていくものであり反対だという意見もあった。

### ゴールドプランを推進 老人福祉計画策定へ

昭和二十年代に骨格が形成された社会福祉制度を取り巻く環境は人口の高齢化の急速な進行、国民意識の多様化、家族形態の変化など大きく変化しており、人生八十

年時代にふさわしい我が国の社会福祉制度の構築が求められ、国は高齢者保健福祉推進十カ年戦略を推進するための基盤整備を進めることとし、市町村における在宅福祉対策の緊急整備、在宅福祉推進十カ年事業ではホームヘルパーの増員や在宅福祉事業の実施主体を全市町村に普及させるとしている。また、県の在宅福祉サービス、施設福祉サービス事務が市町村に移譲され老人福祉計画の策定を、平成五年四月を目途に義務づけており、町のいち早い実施ある施策の取り組みを強く希望する。

### 町民会館回廊を グレードアップ

教育費では、道徳教育推進に西中学校が文部省の研究指定校として「感謝」と思いやりの心」推進に取り組んでいるもので、成果を期待したい。

美術品購入費六百万円は、町民会館回廊のグレードアップということで寄附をいただいたものでありますが、寄附者の意志を十二分に尊重されることを基本とするともに、任された場合は管理委員会できちんとした形で検討されるよう、特に要望する。

# 災害復旧に 1億8千305万円

産業建設常任委員会  
委員長 本多 幸男

当委員会に審査を付託された案件は、議案第三十五号一般会計補正予算の議案一件、請願一件、陳情第九号、第十号の陳情二件で議案、請願は全員一致で可決、採択すべきものと決した。陳情二件のうち、第九号「コメ輸入自由化反対自治体宣言」については先の六月定例会においての議員提出議案「米市場開放阻止ならびに平成三年産米の政府買入価格、米穀政策の確立に関する意見書」を可決したことを踏まえ、全員一致で継続審査とすべきものとし、第十号については全員一致で採択すべきものと決した。

## 水稲種子保管庫 建設補助を評価

今回補正予算中、農業費の採種組合種子保管庫建設補助金二百四十万円は、県下三大水稲種子生産地の一つに成長した採種組合に対するもので、良質米生産の基礎を固め、農業の振興等からも大きく評価する。また、本年五月のあら

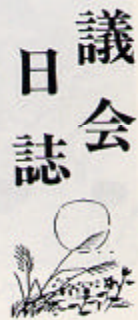
れ等で球根に被害をもたらした、この被害対策に三十万円が計上されているが、汎用作物でないこれらの町特産物育成強化もさることながら、今後の被害対策についても適切に対応されたい。

観光事業費の中に舟見城址館や負約山への施設誘導案内板、イメージアップネクタイピン作製委託料があるが、町イメージアップのより一層の取り組みに智恵を出していただきたい。舟見山自然公園の舟見城址館維持管理については、夜間の防犯対策や冬期間閉鎖することから管理人の確保、処遇について特段の配慮をお願いしたい。

## 中央通りの線建設 災害復旧に努力を

住民生活に密着した道路事業は町民からの要望も強いところであり重要性、緊急性、地区均衡にも十分留意されたい。また、中央通り線整備については、関係職員の労に敬意を表すものであるが、早期完成を目指し、なお一層の努力をお願いしたい。

災害復旧費は、林道施設三千九百三十六万円、漁港施設一億四千三百六十万円で、今回補正予算の六十一割を占めている。復旧については、早期完成に向けて対応されるよう望みたい。特に漁港施設の離岸堤等の復旧については、冬季高波から町民の生命財産を守る見地から早期着工、早期完成に鋭意努力されるよう要望したい。



## 議 会 日 誌 九 月 (ながつき)

- 2日 観光開発調査特別委員会県内先進地視察 (高岡市)
- 3日 新黒部川大橋建設促進期成同盟会総会
- 4日 主要地方道朝日宇奈月公園線、黒部朝日公園線改良促進期成同盟会総会
- 4日 議会運営委員会 (富山市)
- 5日 議員研修会
- 11日 議員全員協議会
- 11日 第15回議会定例会 (提案理由説明)

## 第十六回 臨時議会

- 林道六谷線復旧に  
三千四百万円
- 契約の目的  
林道災害復旧事業六谷線災害復旧工事
- 工事の場所  
入善町舟見地内
- 契約の方法  
指名競争入札による契約
- 契約金額  
三千四百四十万二千円
- 契約の相手方  
入善町舟見二三二一株式会社
- 代表取締役 内島亮子

- 12日 議会運営委員会
- 13日 議会定例会 (一般質問、質疑、委員会付託)
- 17日 総務常任委員会
- 17日 文教厚生常任委員会
- 18日 産業建設常任委員会
- 20日 議員全員協議会
- 20日 議会定例会 (各常任委員長審査報告、討論、採決、監査結果報告)
- 25日 東京入善会 (東京)

## 十 月 (かんなづき)

- 4日 決算特別委員会
- 4日 議員全員協議会
- 9日 第16回議会臨時会
- 9日 沖繩県玉城村議会経済建設常任委員会視察来町
- 14日 決算特別委員会
- 15日 決算特別委員会
- 16日 決算特別委員会
- 19日 姉妹都市使節団訪米
- 22日 日韓友好議員連盟訪韓
- 23日 山形県藤島町議会総務常任委員会視察来町
- 24日 新川広域圏関係市町議会議員体育大会 (魚津市)
- 30日 和歌山県太地町議会総務常任委員会視察来町
- 31日 決算特別委員会行政視察 (長野県飯田市、駒ヶ根市)
- 1日 (長野県飯田市、駒ヶ根市)
- 6日 下新川郡議長会行政視察 (岐阜県下呂市、長野県飯田市)
- 8日 田市)

## 十 一 月 (しもつき)

## 編 集 後 記

※大変遅くなりましたが、ここに九月定例会の内容をお知らせ致します。  
※今年も残すところ三十有余日となり、過ぎし日を顧みると、世は正に国際化、情報化の時代となったことを痛感致します。  
※一月十七日中東湾岸戦争の開戦、テレビが戦況の状況を刻々と報道し、ハイテク兵器のものすごい威力と戦争の悲惨さを嫌というほど見せつけました。  
戦後の仕業には欧米をはじめ、我が国も高いツケを払われる結果となってしまいました。が、国際社会に果たす日本の役割について、今その責任と積極的な対応を求められており、その圧力をひしひしと感じる思いで一杯です。  
またソビエト連邦も波乱の一年であり、環日本海時代に期待をつなぐ富山県にとって、いよいよ目を離せぬ存在になってきました。  
※師走も近づき気ぜわしく感じ、今日この頃です。健康と交通事故にはくれぐれも用心、二用心。

- 石川 昭男 野坂 俊一
- 西尾 政巳 広瀬喜代志
- 本多 幸男 五十陸隆章
- 白又 正司
- (オプザーバー) 池原金與志